

価値創造プロセス

キヤノングループは、時代とともに変化する「社会の動き」を捉えながら、企業理念「共生」のもと、人間尊重、技術優先、進取の気性といった「企業DNA」と、自社の強固な財務基盤や豊富な人材、高い技術力など、さまざまな「リソース」を有効に活用し、また、健全な「コーポレート・ガバナンス」を保ちながら、事業を展開してきました。

そして今、5年ごとの中長期経営計画「グローバル優良企業グループ構想」のもと、独自技術の創造、ならびに時代のニーズに合致した事業展開を「ビジネスユニット」ごとに加速する中で、1. 新たな価値創造、社会課題の解決、2. 地球環境の保護・保全、3. 人と社会への配慮を「共生の実現」に向けた重要課題（マテリアリティ）に位置づけ、注力しています。

このプロセスの中で生み出される価値をもとに、「経済・環境・社会」そして「SDGs達成」に貢献していくとともに、社会やキヤノングループへの「価値の還流」を通じ、ダイナミックに変化する社会におけるキヤノンの役割を再認識し、自らを変革し続けることで、さらなる貢献を果たしていきます。

社会の動き

- 技術進化と効率向上
- 人口増加と高齢化
- 安心・安全の多様化
- 社会・環境課題の顕在化
 - SDGs (持続可能な開発目標)
 - 気候変動
 - 資源制約
 - 持続可能なサプライチェーン

企業DNA

- 人間尊重
- 技術優先
- 進取の気性

リソース

- 財務基盤
- グローバルな事業展開
- 豊富な人材
- 高い技術力

コーポレート・ガバナンス

- ガバナンス体制 (→P97～101)
- リスクマネジメント (→P102～107)

マテリアリティ

- 新たな価値創造、社会課題の解決 (→P15、P29～36)
- 地球環境の保護・保全 (→P16～17、P37～60)
- 人と社会への配慮 (→P18、P61～86)

企業理念 共生

共生 の実現

SDGs達成 への貢献

経済・環境・社会 への貢献

ビジネスユニット

- オフィス(→P87～88)
- イメージングシステム(→P89～90)
- メディカルシステム(→P91～92)
- 産業機器その他(→P93～94)

- 安心・安全な社会づくり(→P31～32)
- メディカル事業拡大による医療向上(→P33～34)
- 産業イノベーション推進による経済成長(→P35～36)
- 低炭素社会の実現(→P47～50)
- 資源循環型社会の実現(→P51～55)
- 人権を尊重した職場づくり(→P61～74)
- 製品の安全性確保と使いやすさ向上(→P75～82)
- 地域社会の持続的発展へ(→P83～86)

価値の還流

- 社会やキャンポングループへのフィードバック
- 自社の役割の再認識
- 自らの変革によるさらなる貢献